

## 畜産ニュース

### ◎肉豚の出荷は敵期に 農林省各方面へ要望

最近の豚枝肉相場の低落から農林省では1月23日付で、肉豚を出荷する場合に小貫ものを売急いで出荷しないよう大よそつぎのように各都道府県へ指示を行なった。

最近肉豚価格の低落に伴って、いわゆる小貫ものの出廻り増加の傾向が現われ、これが今後市況をさらに混乱させ豚価をさらに引き下げる要因となるおそれがある。農林省では畜産物価格安定等に関する法律にもとづいて安定価格を設け、3月上旬から畜産振興事業団による豚肉の価格安定措置としての豚枝肉買入れ業務を開始する計画にしているが、その前に豚肉の価格が上がり上がらないよう肉豚の生産者側に敵期出荷を行なうよう特に留意してほしい。そして当面生産者団体による自主調整保管に対する準備や、小売業者に対する豚肉小売価格の値下げ指導による需要の増進運動をすすめるなどの対策をすすめることにしている。

なお、これに伴って岡山県でもこの線に沿って、今後国において積極的な対策が講ぜられるとかなりの価格安定の効果が期待出来る見込みなので、生産農家、生産団体、出荷業者等に売急ぎをしないよう協力を要望している。

### ◎豚肉乳製品の買入価格きまる

農林省では2月21日、畜産物価格安定法にもとづいて、36年度の指定乳製品および豚肉の安定価格をつぎのように決め同日告示を行なった。

〔指定乳製品安定上位価格〕

バター1キロ安定上位価格（工場渡し卸最高価格）  
600円、脱脂粉乳12・5キロあたり4千350円、

〔豚肉安定基準価格〕

上枝肉1キロ大宮、横浜、名古屋各市245円（以上皮ハギ）、大阪220円、広島215円、福岡210円（以上湯ハギ）

農林省では、豚肉はじめ畜産物価格の安定をはかるため、1月30日付で畜産物価格審議会委員19名（生産者代表6名、業者代表8名、学識経験者5名）を任命、同審議会では2月14日までに3回にわたり会合を開き、豚肉、乳製品安定価格について協議、農林大臣あての答申を行なっていたが、これをもとに安定価格を行なっていたが、これをもとに安定価格を検討ようやく決定をみたもの。

また、全脂加糖練乳、脱脂加糖練乳については次回に取上げることとし、とりあえずバター400トン、脱脂粉乳3千トンの緊急輸入を決めた。

なお畜産振興事業団は今後市場から毎日の市況（入荷量、価格、格付）をみて、基準価格を下回るとき買上げを行なうが、当初は関東、大阪両地区が主となる見込みである。

### ◎大阪で玉子祭り

鶏卵の消費拡大をはかるため、毎年玉子の売行きのわるい3月下旬をねらって日本卵業協会が主催、在阪関係県出先事務所の後援で「玉子祭」が開催されるが、今年も3月20日から24日までの5日間行なわれることになっている。

この期間中には鶏卵利用についての各種P・Rパレード卵の大安売等いろいろな行事が行なわれる。

### ◎経済連で肉豚共進会開く

岡山県経済連では県内の養豚振興と肉豚の販路拡張をはかるため、第1回岡山県肉豚共進会を大阪市の徳島ハム株式会社で2月21日と22日の間にわたって開催する。

開催計画はつぎのとおり。

- 1、期日 昭和37年2月21、22日（2日間）
- 2、場所 大阪市西淀川区竹島町 徳島ハム株式会社大阪工場屠畜場

## 岡山畜産便り 1962.02

- 3、事務所 岡山県経済農業協同組合連合会内  
(会期中は会場内)
- 4、主催 岡山県経済連
- 5、出品頭数 45 頭

## 盛会の冬期畜産大学

2月2日から6日の6日間、岡山市の山陽新聞社講堂、津山市の鶴山館で開かれた冬季畜産大学は、今年も好評を博し各会場とも多数の聴講者を集めたが、このほど県畜産会でとりまとめた参加者はつぎのとおりであった。

講座	岡山会場	津山会場	計
養鶏	547名	629	1,176
酪農	564	585	1,149
和牛	382	394	76
養鶏	248	209	457